

インクルーシブ教育システム構築支援データベース
「合理的配慮」実践事例データベース
検索マニュアル

Ver 1.10

2023/6/23



独立行政法人国立特別支援教育総合研究所
National Institute of Special Needs Education

目次

1. 3 種類の検索方法.....	1
1.1 キーワード検索.....	2
1.2 条件指定による検索.....	5
1.3 組み合わせによる検索.....	12
2. 検索結果画面の操作.....	15
2.1 検索結果ページの切替.....	15
2.2 検索結果の表示順変更.....	16
3. 具体的な検索例.....	17
3.1 検索例 1.....	17
3.2 検索例 2.....	19

1.3 種類の検索方法

「実践事例データベース」では、下記の3種類の方法にて検索することができます。

1. キーワード検索
2. 条件指定による検索
3. キーワード及び条件指定による検索

インクルーシブ教育システム構築支援データベース

文字の大きさ

小

標準

大

表示色の変更

標準

1

2

▶ アクセシビリティツールを起動

▶ ツールの使い方

各

トップページ

▶

実践事例データベース

▶

基礎的情報

▶

Q & A

▶

その他関連情報

[トップページ](#) > [実践事例データベース](#)

キーワード検索

検索

【Ⅰ】対象児童生徒等の障害種

必須

and or

☒ 視覚障害 [7]
☒ 聴覚障害 [15]
☒ 知的障害 [26]
☒ 肢体不自由 [12]
☒ 病弱・身体虚弱 [6]
☒ 言語障害 [2]
☒ 自閉症 [16]
☒ 情緒障害 [10]
☒ LD(学習障害) [12]
☒ ADHD(注意欠陥多動性障害) [19]
☒ 全て選択／全て解除

【Ⅱ】対象児童生徒等の障害の程度

(学校教育法施行令第22条の3)

☐ 該当 [52]
☐ 非該当 [9]

【Ⅲ】対象児童生徒等の在籍状況等

☐ 幼稚園 [1]
☐ 小学校(通常の学級) [9]
☐ 小学校(通常の学級・通級による指導) [29]
☐ 小学校(特別支援学級) [30]
☐ 中学校(通常の学級) [2]
☐ 中学校(通常の学級・通級による指導) [4]
☐ 中学校(特別支援学級) [5]
☐ 高等学校 [8]
☐ 中等教育学校 [0]
☐ 特別支援学校(幼稚園) [0]
☐ 特別支援学校(小学部) [8]
☐ 特別支援学校(中学部) [2]
☐ 特別支援学校(高等部) [2]

【Ⅳ】対象児童生徒等の学年

☐ 年少 [1]
☐ 年中 [0]
☐ 年長 [0]
☐ 小1 [8]
☐ 小2 [14]
☐ 小3 [13]
☐ 小4 [20]
☐ 小5 [11]
☐ 小6 [10]
☐ 中1 [5]
☐ 中2 [4]
☐ 中3 [4]
☐ 高1 [1]
☐ 高2 [5]
☐ 高3 [4]

【Ⅴ】基礎的環境整備の観点

☐ 基礎① ネットワークの形成・連続性のある多様な学びの場の活用
☐ 基礎② 専門性のある指導体制の確保
☐ 基礎③ 個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成等による指導
☐ 基礎④ 教材の確保
☐ 基礎⑤ 施設・設備の整備
☐ 基礎⑥ 専門性のある教員、支援員等の人的配置
☐ 基礎⑦ 個に応じた指導や学びの場の設定等による特別な指導
☐ 基礎⑧ 交流及び共同学習の推進
☐ 全て選択

【Ⅵ】合理的配慮の観点

☐ 合理①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮
☐ 合理①-1-2 学習内容の変更・調整
☐ 合理①-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮
☐ 合理①-2-2 学習機会や体験の確保
☐ 合理①-2-3 心理面・健康面の配慮
☐ 合理②-1 専門性のある指導体制の整備
☐ 合理②-2 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮
☐ 合理②-3 災害時等の支援体制の整備
☐ 合理③-1 校内環境のバリアフリー化
☐ 合理③-2 発達・障害の特性及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮
☐ 合理③-3 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮
☐ 全て選択

検索

クリア

1.1 キーワード検索

登録されている実践事例データの中から、キーワード(フリーワード)を1つあるいは複数指定して検索することが可能です。複数キーワードによる検索方法の指定を下記に示します。

● AND 検索:

空白文字(半角・全角空白)で区切ります。

<例:「”視覚” “聴覚”」… 視覚 と 聴覚 のいずれも含む>

[検索操作手順]

①テキストボックス部分に検索したいキーワードを入力します。(例として、1語”ICT”を入力)

②キーワード検索部分の「検索」ボタンをクリックします。

キーワード検索

①

ICT

②

検索

【Ⅰ】対象児童生徒等の障害種 **必須**

and or

☒ 視覚障害 [0]

☒ 聴覚障害 [2]

☒ 知的障害 [3]

☒ 肢体不自由 [0]

☒ 病弱・身体虚弱 [0]

☒ 言語障害 [0]

☒ 自閉症 [7]

☒ 情緒障害 [0]

☒ LD(学習障害) [0]

☒ ADHD(注意欠陥多動性障害) [0]

☒ 全て選択／全て解除

【Ⅲ】対象児童生徒等の在籍状況等

☐ 幼稚園 [0]

☐ 小学校(通常の学級) [3]

☐ 小学校(通常の学級・通級による指導) [0]

☐ 小学校(特別支援学級) [0]

☐ 中学校(通常の学級) [0]

☐ 中学校(通常の学級・通級による指導) [0]

☐ 中学校(特別支援学級) [0]

☐ 高等学校 [0]

☐ 中等教育学校 [3]

☐ 特別支援学校(幼稚部) [0]

☐ 特別支援学校(小学部) [0]

☐ 特別支援学校(中学部) [0]

☐ 特別支援学校(高等部) [2]

指定したキーワードが含まれている実践事例データが表示されます。

③「詳細」ボタンをクリックすると、実践事例データの詳細な内容が表示されます。

検索結果

キーワード:「ICT」【Ⅰ】視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、言語障害、自閉症、情緒障害、LD(学習障害)、ADHD(注意欠陥多動性障害)

1 - 5 of 9 Items

検索画面に戻る

表示順 **新着順降順** 表示数 **5**

1 2 [次へ>](#)

1

Hit数:4

詳細

学習場面や対人関係の問題行動を軽減しようとした事例である。通常の学級では、主にA児が得意とするICTの活用を取り入れて活動に集中させたり、家庭学習の内容や量の調整を行い学習意欲の持続を図ったりして

【Ⅰ】障害種

ADHD(注意欠陥多動性障害)

【Ⅲ】在籍状況等

小学校(通常の学級・通級による指導)

検索キーワード

注意欠陥多動性障害、不適応行動、心理的不安定、周囲の児童とのかわり、ICT機器、行動目標確認カード、ストレス、共通理解、信頼できる教員

概要(500文字程度)

通常の学級に在籍する不適応行動を顕著に示す注意欠陥多動性障害のある小学校5年生A児の事例である。A児が信頼する教員がかかわりストレスを取り除きながら、心理的な安定を図り、一斉学習場面や対人関係の問題行動を軽減しようとした事例である。通常の学級では、主にA児が得意とするICTの活用を取り入れて活動に集中させたり、家庭学習の内容や量の調整を行い学習意欲の持続を図ったりしてきた。学級活動で、A児の特性やかかわり方を他の児童に具体的に伝え、学級集団の質を高めてきた。特別支援学級を弾力的に運用し、教育相談として活用したり、心理的な安定を図る場として利用したりした。また、特別支援学級では、行動目標確認カードを使って通常の学級での授業への取り組み方の振り返りをした。校長、教頭、教務主任、特別支援学級担任、介護補助員が学級担任と連携しチームによる支援体制を整備した。保護者と面談を行い、A児の実態の共通理解と支援内容の合意形成を図った。中学校区単位で行われる検討委員会では、個別の教育支援計画と個別の指導計画を用いて、情報を共有しながら、合理的配慮を見直してきた。

2

Hit数:1

詳細

台)を購入し、各学校で利用できる環境を確保している。○小学校では、電子黒板やデジタル教科書などのICT機器を使用し、視覚的情報を活用しながら学習を進めている。A児に対しても、絵カードや学習パスル、タ

【Ⅰ】障害種

知的障害

【Ⅲ】在籍状況等

小学校(特別支援学級)

検索キーワード

知的障害、特別支援学校のセンターの機能、校内支援体制、介護補助員、視覚的教材、モデルの提示、教材の工夫、自己肯定感

概要(500文字程度)

対象事例は、知的障害がある小学校1年生の男子児童Aが、知的障害特別支援学級に在籍し、介護補助員が付いた上で通常の学級で次のような支援を行うことによって学習や生活をしている事例である。A児は、言葉の理解の遅れや平仮名の読み書きの難しさ等、学習全般の遅れがある。また、集中時間が短かったり、初めてのことを拒んだりする場面が見られる。自己肯定感が低くなってきている。一方、友達関係は良好であり、係活動や当番活動には意欲的に取り組む様子も見られる。言語理解の困難に対しては、A児が理解している言葉をつかい話したり、手順カードや写真、絵、タブレット型情報端末機器を活用したりした。平仮名の読み書きの難しさには、学習量を調整したり、マス目や下書きを書いたり、お絵かきボードを使って手本を見せたりした。集中時間が短いことに対しては、授業中に短い休憩を取り入れた。初めてのことに抵抗を示すことに対しては、特別支援学級における個別の予学習やA児の経験に置き換え、あるいはルールの簡略化をした。また、A児が活躍することができるクラス遊びや係活動、当番活動を積極的にに行い、学級への所属感や自己肯定感の向上を図った。

④「ダウンロード」をクリックすると、実践事例データの全ての内容が確認できます。

実践事例報告書(PDF 形式)の内容が表示されます。

検索結果 キーワード:「ICT」【Ⅰ】視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、言語障害、自閉症、情緒障害、LD(学習障害)、ADHD(注意欠陥多動性障害)

検索画面に戻る

一覧画面に戻る

④

ダウンロード

ダウンロード数:2

ファイル名	容量	更新日
H250004PS1-ID.pdf	84キロバイト	2014-06-06

【Ⅰ】障害種	【Ⅱ】障害の程度	【Ⅲ】在籍状況等	【Ⅳ】学年
知的障害	該当(知的障害)	小学校(特別支援学級)	小1

検索キーワード

知的障害、特別支援学校のセンター的機能、校内支援体制、介護補助員、視覚的教材、モデルの提示、教材の工夫、自己肯定感

概要(500文字程度)

対象事例は、知的障害がある小学校1年生の男子児童Aが、知的障害特別支援学級に在籍し、介護補助員が付いた上で通常の学級で次のような支援を行うことによって学習や生活をしている事例である。A児は、言葉の理解の遅れや平仮名の読み書きの難しさ等、学習全般の遅れがある。また、集中時間が短かったり、初めてのことを拒んだりする場面が見られる。自己肯定感が低くなってきている。一方、友達関係は良好であり、係活動や当番活動には意欲的に取り組む様子も見られる。言語理解の困難に対しては、A児が理解している言葉をつかいて話したり、手順カードや写真、絵、タブレット型情報端末機器を活用したりした。平仮名の読み書きの難しさには、学習量を調整したり、マス目や下書きを書いたり、お絵かきボードを使って手本を見せたりした。集中時間が短いことに対しては、授業中に短い休憩を取り入れた。初めてのことに抵抗を示すことに対しては、特別支援学級における個別の予習学習やA児の経験に置き換え、あるいはルールの簡略化をした。また、A児が活躍することができるクラス遊びや係活動、当番活動を積極的に扱い、学級への所属感や自己肯定感の向上を図った。

1.2 条件指定による検索

登録されている実践事例データの中から下記の6種類の条件を指定して検索することが可能です。
全ての条件項目において、複数指定することが可能です。
各条件項目に該当する実践事例データ数が、各条件項目名の右に数値として表示されています。
下記の通り、具体的な検索条件を設定します。

【Ⅰ】対象児童生徒等の障害種 必須

☐ and ☒ or

☒ 視覚障害 [0]

☒ 聴覚障害 [2]

☒ 知的障害 [3]

☒ 肢体不自由 [0]

☒ 病弱・身体虚弱 [0]

☒ 言語障害 [0]

☒ 自閉症 [7]

☒ 情緒障害 [0]

☒ LD(学習障害) [0]

☒ ADHD(注意欠陥多動性障害) [0]

☒ 全て選択／全て解除

該当事例数

【Ⅰ】対象児童生徒等の障害種(※必須項目)

検索対象とする障害種を指定できます。
初期設定では全ての障害種がチェックされています。
障害種を個別に検索したい場合には、下にある「全て選択/全て解除」を外して、障害種を個別にチェックします。
また、重複障害を指定する場合には、上にある『and』をクリックして、☒ and ☐ or に切り換えてから複数の障害種をチェックします。

【Ⅱ】対象児童生徒等の障害の程度
(学校教育法施行令第22条の3)

☐ 該当 [61]

☐ 非該当 [11]

【Ⅱ】対象児童生徒等の障害の程度

視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱の5つの障害種においては、学校教育法施行令第22条の3(※)で定めた障害の程度に該当するか否かを条件として指定できます。

※学校教育法施行令第22条の3については、[こちら](#)を参照して下さい。

【Ⅲ】対象児童生徒等の在籍状況等

- ☐ 幼稚園 [0]
- ☐ 小学校(通常の学級) [4]
- ☒ 小学校(通常の学級・通級による指導) [21]
- ☒ 小学校(特別支援学級) [21]
- ☐ 中学校(通常の学級) [1]
- ☐ 中学校(通常の学級・通級による指導) [2]
- ☐ 中学校(特別支援学級) [4]
- ☐ 高等学校 [7]
- ☐ 中等教育学校 [0]
- ☐ 特別支援学校(幼稚部) [0]
- ☐ 特別支援学校(小学部) [11]
- ☐ 特別支援学校(中学部) [5]
- ☐ 特別支援学校(高等部) [1]

【Ⅳ】対象児童生徒等の学年

検索対象とする児童生徒等の学年を指定できます。
選択できる学年は【Ⅲ】対象児童生徒等の在籍状況等
項目に対応する学年のみ選択可能です。

【Ⅲ】対象児童生徒等の在籍状況等

検索対象とする児童生徒等の在籍状況を
指定できます。

【Ⅳ】対象児童生徒等の学年

- ☐ 年少 [0]
- ☐ 年中 [0]
- ☐ 年長 [0]
- ☐ 小1 [6]
- ☐ 小2 [8]
- ☐ 小3 [9]
- ☐ 小4 [15]
- ☐ 小5 [11]
- ☐ 小6 [8]
- ☐ 中1 [5]
- ☐ 中2 [3]
- ☐ 中3 [4]
- ☐ 高1 [2]
- ☐ 高2 [4]
- ☐ 高3 [2]

【Ⅲ】在籍状況等 \ 学年	年少	年中	年長	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
幼稚園	●	●	●												
小学校(通常の学級)				●	●	●	●	●	●						
小学校(通常の学級・通級による指導)				●	●	●	●	●	●						
小学校(特別支援学級)				●	●	●	●	●	●						
中学校(通常の学級)										●	●	●			
中学校(通常の学級・通級による指導)										●	●	●			
中学校(特別支援学級)										●	●	●			
高等学校													●	●	●
中等教育学校										●	●	●	●	●	●
特別支援学校(幼稚部)	●	●	●												
特別支援学校(小学部)				●	●	●	●	●	●						
特別支援学校(中学部)										●	●	●			
特別支援学校(高等部)													●	●	●

【Ⅲ】対象児童生徒等の在籍状況等と【Ⅳ】対象児童生徒等の学年の対応表

【Ⅴ】基礎的環境整備の観点

- ☐ 基礎① ネットワークの形成・連続性のある多様な学びの場の活用
- ☐ 基礎② 専門性のある指導体制の確保
- ☐ 基礎③ 個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成等による指導
- ☐ 基礎④ 教材の確保
- ☐ 基礎⑤ 施設・設備の整備
- ☐ 基礎⑥ 専門性のある教員、支援員等の人的配置
- ☐ 基礎⑦ 個に応じた指導や学びの場の設定等による特別な指導
- ☐ 基礎⑧ 交流及び共同学習の推進

☐ 全て選択

【Ⅴ】基礎的環境整備の観点

基礎的環境整備の観点を指定できます。
全ての基礎的環境整備の観点を検索したい場合には、下にある「全て選択」の□にチェックを入れます。

【VI】合理的配慮の観点

- ☐ 合理①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮
- ☐ 合理①-1-2 学習内容の変更・調整
- ☐ 合理①-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮
- ☐ 合理①-2-2 学習機会や体験の確保
- ☐ 合理①-2-3 心理面・健康面の配慮
- ☐ 合理②-1 専門性のある指導体制の整備
- ☐ 合理②-2 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮
- ☐ 合理②-3 災害時等の支援体制の整備
- ☐ 合理③-1 校内環境のバリアフリー化
- ☐ 合理③-2 発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮
- ☐ 合理③-3 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮
- ☐ 全て選択

【VI】合理的配慮の観点

合理的配慮の観点を指定できます。
全ての合理的配慮の観点を検索したい場合には、下にある「全て選択」の口にチェックを入れます。

インクルーシブ教育システム構築支援データベース

国立特別支援教育総合研究所
NISE National Institute of Special Needs Education

文字の大きさ
表示色の変更
▶ [アクセシビリティツールを起動](#)
▶ [ツールの使い方](#)

[トップページ](#) ▶ [実践事例データベース](#) ▶ [基礎的情報](#) ▶ [Q & A](#) ▶ [その他関連情報](#)

[トップページ](#) > [実践事例データベース](#)

キーワード検索

検索

①

【Ⅰ】対象児童生徒等の障害種 **必須**

☐ and ☐ or

- ☒ 視覚障害 [7]
- ☒ 聴覚障害 [15]
- ☒ 知的障害 [26]
- ☒ 肢体不自由 [12]
- ☒ 病弱・身体虚弱 [6]
- ☒ 言語障害 [2]
- ☒ 自閉症 [16]
- ☒ 情緒障害 [10]
- ☒ LD(学習障害) [12]
- ☒ ADHD(注意欠陥多動性障害) [19]
- ☐ 全て選択/全て解除

【Ⅱ】対象児童生徒等の障害の程度
(学校教育法施行令第22条の3)

- ☐ 該当 [52]
- ☐ 非該当 [9]

【Ⅲ】対象児童生徒等の在籍状況等

- ☐ 幼稚園 [1]
- ☐ 小学校(通常の学級) [9]
- ☐ 小学校(通常の学級・通級による指導) [29]
- ☐ 小学校(特別支援学級) [30]
- ☐ 中学校(通常の学級) [2]
- ☐ 中学校(通常の学級・通級による指導) [4]
- ☐ 中学校(特別支援学級) [5]
- ☐ 高等学校 [8]
- ☐ 中等教育学校 [0]
- ☐ 特別支援学校(幼稚園) [0]
- ☐ 特別支援学校(小学部) [8]
- ☐ 特別支援学校(中学部) [2]
- ☐ 特別支援学校(高等部) [2]

【Ⅳ】対象児童生徒等の学年

- ☐ 年少 [1]
- ☐ 年中 [0]
- ☐ 年長 [0]
- ☐ 小1 [8]
- ☐ 小2 [14]
- ☐ 小3 [13]
- ☐ 小4 [20]
- ☐ 小5 [11]
- ☐ 小6 [10]
- ☐ 中1 [5]
- ☐ 中2 [4]
- ☐ 中3 [4]
- ☐ 高1 [1]
- ☐ 高2 [5]
- ☐ 高3 [4]

【Ⅴ】基礎的環境整備の観点

- ☐ 基礎① ネットワークの形成・連続性のある多様な学びの場の活用
- ☐ 基礎② 専門性のある指導体制の確保
- ☐ 基礎③ 個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成等による指導
- ☐ 基礎④ 教材の確保
- ☐ 基礎⑤ 施設・設備の整備
- ☐ 基礎⑥ 専門性のある教員、支援員等の人的配置
- ☐ 基礎⑦ 個に応じた指導や学びの場の設定等による特別な指導
- ☐ 基礎⑧ 交流及び共同学習の推進
- ☐ 全て選択

【Ⅵ】合理的配慮の観点

- ☐ 合理①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮
- ☐ 合理①-1-2 学習内容の変更・調整
- ☐ 合理①-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮
- ☐ 合理①-2-2 学習機会や体験の確保
- ☐ 合理①-2-3 心理面・健康面の配慮
- ☐ 合理②-1 専門性のある指導体制の整備
- ☐ 合理②-2 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮
- ☐ 合理②-3 災害時等の支援体制の整備
- ☐ 合理③-1 校内環境のバリアフリー化
- ☐ 合理③-2 発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮
- ☐ 合理③-3 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮
- ☐ 全て選択

②

検索

クリア

[検索操作手順]

- ① 【Ⅰ】～【Ⅵ】の6種類の条件から検索条件を設定します。
- ② 画面の下部にある「検索」ボタンをクリックします。
指定した条件に該当する実践事例データが一覧で表示されます。

③「詳細」ボタンをクリックすると、実践事例データの詳細な内容が表示されます。

検索結果

【Ⅰ】視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、言語障害、自閉症、情緒障害、LD(学習障害)、ADHD(注意欠陥多動性障害)

1 - 5 of 7 Items

検索画面に戻る

表示順 新着順降順

表示数 5

1

2

次へ>

③

詳細

1

【Ⅰ】障害種

知的障害 自閉症

【Ⅲ】在籍状況等

中等教育学校

検索キーワード

自閉症、軽度の知的障害、友達とのトラブル、無断下校

概要(500文字程度)

自閉症・通常の学級に通う中等教育学校2年生。自閉症と軽い知的障害の疑いがある中等教育学校2年生の生徒の事例である。

2

【Ⅰ】障害種

聴覚障害

【Ⅲ】在籍状況等

特別支援学校(高等部)

検索キーワード

聴覚障害、コミュニケーション、手話、筆談力、心理的な安定

概要(500文字程度)

事例は、特別支援(聴覚障害)学校の高等部2年に在籍する生徒に関するものである。生徒Aは幼稚園3歳の時にこの特別支援学校(聴覚障害)に入学し、小学部、中学部とこの学校で過ごし、現在は高等部普通科に在籍している。同じく聴覚障害のある兄がおり、家庭でも学校でも手話を多く使用している。補聴器を装用した状態では、大きめの声での会話は簡単な内容であれば理解できる。音声の聞き分けはあまり得意ではなく、聞こえる人と話す時には筆談することが多い。授業では教師は音声、手話を併用し、プラズマテレビやPCなどを使って視覚的情報を多く提示している。そのことにより、学習内容の理解が深まり、高等学校に準ずる教育課程を履修している。

④実践事例データの詳細が表示されます。

検索条件として【Ⅴ】基礎的環境整備の観点と【Ⅵ】合理的配慮の観点を指定した場合は選択した観点が表示されます。

「ダウンロード」をクリックすると、実践事例データの全ての内容が確認できます。

実践事例報告書(PDF形式)の内容が表示されます。

検索結果 【Ⅰ】聴覚障害、【Ⅴ】基礎⑤、【Ⅵ】合理①-2-2

検索画面に戻る

一覧画面に戻る

ファイル名	容量	更新日	ダウンロード
H250006PT4-HI.pdf	784キロバイト	2014-06-06	ダウンロード数:7

【Ⅰ】障害種	【Ⅱ】障害の程度	【Ⅲ】在籍状況等	【Ⅳ】学年
聴覚障害	該当(聴覚障害)	小学校(通常の学級・通級による指導)	小4

検索キーワード

両側性感音難聴、通常の学級、通級による指導、難聴通級指導教室、補聴器、FM補聴システム、ノートテイク、手話、支援員、視覚的な情報提供、

概要(500文字程度)

小学校4年生の通常の学級に在籍する聴覚障害のある児童が、通級による指導や、D市が配置する特別支援教育支援員(以下「支援員」という)による支援を活用しながら学習を行っている事例である。A児は医療機関にて両側性感音難聴と診断されており、30cmの近さの叫び声がようやく聞こえる程度である。発音はやや不明瞭であり、また、イントネーションが不自然なところがある。週に6～8時間行われる通級による指導では、聴覚の管理(聞こえの実態把握等)、聴覚学習、発音練習、言語指導、コミュニケーションに関する学習、障害認識(自己理解)に関する指導や、教科の補充学習等を受けている。また、通常の学級では、FM補聴システムの活用と、支援員による支援を受けている。支援員による、教科学習の際のノートテイクや教科書の音読している箇所の指示等を受けている。また、全校集会等の行事においては視覚的な情報保障を受けている。このような支援によって、A児は学年相応の学力を十分身に付けることができていく。また、在籍する学級において、まわりの言っていることを理解できずに疎外感や孤立感をいだくことなく、意欲をもって学習に取り組むことができていく。

【基礎⑤】施設・設備の整備

D市はB小学校に、難聴通級指導教室を設けている。通級指導教室内の床には絨毯を敷き、雑音対策を行って級指導教室には、モニターが設置され、出入りする扉はマジックミラーとなっている。必要に応じて、外部から放たれるようになっている。その他にも、D市はB小学校に、ブレイルームや検査室、相談室、モニター室を設置して籍児童及び通級児童等の自立活動や、児童の教育相談や個別検査で活用している。

【Ⅴ】基礎的環境整備の観点
【Ⅵ】合理的配慮の観点
表示部分

*条件指定した場合のみ表示

【合理①-2-2】学習機会や体験の確保

A児は耳からの情報が少なく、言語経験も少ないため、新しく学習する慣用句や語句等の習得に時間がなかったり、誤って使用したりしてしまうことがある。また、声のボリュームが適切でなかったり、他の児童がいる前で着替えをしまったりするなど、その場の状況や雰囲気と合わない行動をとってしまうことがある。そこで、通級による指導の時間を利用して、日常生活で必要とされる様々なルールや常識等の理解、慣用句や語句の使い方の学習、日記の指導等を行い、ソーシャルスキルを獲得する機会を確保している。

1.3 組み合わせによる検索

キーワードと条件を組み合わせで検索することができます。

[検索操作手順]

- ①テキストボックス部分に検索したいキーワードを入力します。
- ②具体的な検索条件を設定します。
- ③画面の下部にある「検索」ボタンをクリックします。

インクルーシブ教育システム構築支援データベース

文字の大きさ 小 標準 大
表示色の変更 標準 1 2
[アクセシビリティツールを起動](#)
[ツールの使い方](#)

[トップページ](#)
[実践事例データベース](#)
[基礎的情報](#)
[Q & A](#)
[その他関連情報](#)

[トップページ](#) > [実践事例データベース](#)

キーワード検索

検索

【Ⅰ】対象児童生徒等の障害種 必須

and or

☒ 視覚障害 [7]
☒ 聴覚障害 [15]
☒ 知的障害 [26]
☒ 肢体不自由 [12]
☒ 病弱・身体虚弱 [6]
☒ 言語障害 [2]
☒ 自閉症 [16]
☒ 情緒障害 [10]
☒ LD(学習障害) [12]
☒ ADHD(注意欠陥多動性障害) [19]
☒ 全て選択 / 全て解除

【Ⅱ】対象児童生徒等の障害の程度
(学校教育法施行令第22条の3)

☐ 該当 [52]
☐ 非該当 [9]

【Ⅲ】対象児童生徒等の在籍状況等

☐ 幼稚園 [1]
☐ 小学校(通常の学級) [9]
☐ 小学校(通常の学級・通級による指導) [29]
☐ 小学校(特別支援学級) [30]
☐ 中学校(通常の学級) [2]
☐ 中学校(通常の学級・通級による指導) [4]
☐ 中学校(特別支援学級) [5]
☐ 高等学校 [8]
☐ 中等教育学校 [0]
☐ 特別支援学校(幼稚園) [0]
☐ 特別支援学校(小学部) [8]
☐ 特別支援学校(中学部) [2]
☐ 特別支援学校(高等部) [2]

【Ⅳ】対象児童生徒等の学年

☐ 年少 [1]
☐ 年中 [0]
☐ 年長 [0]
☐ 小1 [8]
☐ 小2 [14]
☐ 小3 [13]
☐ 小4 [20]
☐ 小5 [11]
☐ 小6 [10]
☐ 中1 [5]
☐ 中2 [4]
☐ 中3 [4]
☐ 高1 [1]
☐ 高2 [5]
☐ 高3 [4]

【Ⅴ】基礎的環境整備の観点

☐ 基礎① ネットワークの形成・連続性のある多様な学びの場の活用
☐ 基礎② 専門性のある指導体制の確保
☐ 基礎③ 個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成等による指導
☐ 基礎④ 教材の確保
☐ 基礎⑤ 施設・設備の整備
☐ 基礎⑥ 専門性のある教員、支援員等の人的配置
☐ 基礎⑦ 個に応じた指導や学びの場の設定等による特別な指導
☐ 基礎⑧ 交流及び共同学習の推進
☐ 全て選択

【Ⅵ】合理的配慮の観点

☐ 合理①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮
☐ 合理①-1-2 学習内容の変更・調整
☐ 合理①-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮
☐ 合理①-2-2 学習機会や体験の確保
☐ 合理①-2-3 心理面・健康面の配慮
☐ 合理②-1 専門性のある指導体制の整備
☐ 合理②-2 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮
☐ 合理②-3 災害時等の支援体制の整備
☐ 合理③-1 校内環境のバリアフリー化
☐ 合理③-2 発達、障害の特性及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮
☐ 合理③-3 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮
☐ 全て選択

③ 検索

クリア

指定した条件に該当する実践事例データの中で、指定したキーワードが含まれている実践事例データが一覧で表示されます。

12

④「詳細」ボタンをクリックすると、実践事例データの詳細な内容が表示されます。

検索結果

キーワード:「生徒」【Ⅰ】視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、言語障害、自閉症、情緒障害、LD（学習障害）、ADHD（注意欠陥多動性障害）、【Ⅴ】基礎①、【Ⅴ】基礎②、【Ⅴ】基礎③、【Ⅴ】基礎④、【Ⅴ】基礎⑤、【Ⅴ】基礎⑥、【Ⅴ】基礎⑦、【Ⅴ】基礎⑧、【Ⅵ】合理①-1-1、【Ⅵ】合理①-1-2、【Ⅵ】合理①-2-1、【Ⅵ】合理①-2-2、【Ⅵ】合理①-2-3、【Ⅵ】合理②-1、【Ⅵ】合理②-2、【Ⅵ】合理②-3、【Ⅵ】合理③-1、【Ⅵ】合理③-2、【Ⅵ】合理③-3

1 - 4 of 4 Items

検索画面に戻る

表示順 新着順降順 表示数 5

1

Hit数:2

④

詳細

中等教育学校2年生の生徒の事例である。自閉症、軽度の知的障害、友達とのトラブル、無断下校自閉症で中等教育学校2年生。Aさんは、B市立C中等教育学校2年生の通常の学級に在籍する男子生徒で軽度の知的な遅れと

【Ⅰ】障害種	【Ⅲ】在籍状況等
知的障害 自閉症	中等教育学校

検索キーワード

自閉症、軽度の知的障害、友達とのトラブル、無断下校

概要(500文字程度)

自閉症・通常の学級に通う中等教育学校2年生。自閉症と軽い知的障害の疑いがある中等教育学校2年生の生徒の事例である。

2

Hit数:24

詳細

事例は、特別支援(聴覚障害)学校の高等部2年に在籍する生徒に関するものである。生徒Aは幼稚園3歳の時にこの特別支援学校(聴覚障害)に入学し、小学部、中学部とこの学校で過ごし、現在は高等部普通科に在籍している。同じく聴覚障害のある兄があり、家庭でも学校でも手話を多く使用している。補聴器を装着した状態では、大きめの声での会話は簡単な内容であれば理解できる。音声の聞きわけはあまり得意ではなく、聞こえる人と話す時には筆談することが多い。授業では教師は音声、手話を併用し、プラズマテレビやPCなどを使って視覚的情報を多く提示している。そのことにより、学習内容の理解が深まり、高等学校に準ずる教育課程を履修している。

【Ⅰ】障害種	【Ⅲ】在籍状況等
聴覚障害	特別支援学校(高等部)

検索キーワード

聴覚障害、コミュニケーション、手話、筆談力、心理的な安定

概要(500文字程度)

事例は、特別支援(聴覚障害)学校の高等部2年に在籍する生徒に関するものである。生徒Aは幼稚園3歳の時にこの特別支援学校(聴覚障害)に入学し、小学部、中学部とこの学校で過ごし、現在は高等部普通科に在籍している。同じく聴覚障害のある兄があり、家庭でも学校でも手話を多く使用している。補聴器を装着した状態では、大きめの声での会話は簡単な内容であれば理解できる。音声の聞きわけはあまり得意ではなく、聞こえる人と話す時には筆談することが多い。授業では教師は音声、手話を併用し、プラズマテレビやPCなどを使って視覚的情報を多く提示している。そのことにより、学習内容の理解が深まり、高等学校に準ずる教育課程を履修している。

⑤実践事例データの詳細が表示されます。

検索条件として【V】基礎的環境整備の観点と【VI】合理的配慮の観点を指定した場合は選択した観点が表示されます。

「ダウンロード」をクリックすると、実践事例データの全ての内容が確認できます。

実践事例報告書(PDF形式)の内容が表示されます。

検索結果

キーワード:「生徒」【I】視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、言語障害、自閉症、情緒障害、LD(学習障害)、ADHD(注意欠陥多動性障害)、【V】基礎①、【V】基礎②、【VI】合理①-1-2

検索画面に戻る

一覧画面に戻る

ファイル名	容量	更新日	ダウンロード
H250005PTS-AD.pdf	120キロバイト	2014-06-06	ダウンロード数:3

【I】障害種	【II】障害の程度	【III】在籍状況等	【IV】学年
ADHD(注意欠陥多動性障害)	-	小学校(通常の学級・通級による指導)	小5

検索キーワード

注意欠陥多動性障害、不適応行動、心理的不安定、周囲の児童とのかかわり、ICT機器、行動目標確認カード、ストレス、共通理解、信頼できる教員

概要(500文字程度)

通常の学級に在籍する不適応行動を顕著に示す注意欠陥多動性障害のある小学校5年生A児の事例である。A児が信頼する教員がかかわりストレスを取り除きながら、心理的な安定を図り、一斉学習場面や対人関係の問題行動を軽減しようとした事例である。通常の学級では、主にA児が得意とするICTの活用を取り入れて活動に集中させたり、家庭学習の内容や量の調整を行い学習意欲の持続を図ったりしてきた。学級活動で、A児の特性やかかわり方を他の児童に具体的に伝え、学級集団の質を高めてきた。特別支援学級を弾力的に運用し、教育相談として活用したり、心理的な安定を図る場として利用したりした。また、特別支援学級では、行動目標確認カードを使って通常の学級での授業への取り組み方の振り返りを行った。校長、教頭、教務主任、特別支援学級担任、介護補助員が学級担任と連携しチームによる支援体制を整備した。保護者と面談を行い、A児の実態の共通理解と支援内容の合意形成を図った。中学校区単位で行われる検討委員会では、個別的教育支援計画と個別の指導計画を用いて、情報を共有しながら、合理的配慮を見直してきた。

【基礎①】ネットワークの形成・遠征性のある多様な学びの場の活用

A児が在籍している○小学校には、特別支援学級3学級(計16名在籍)が設置されており、その内訳は、知的障害1学級(7名在籍)、自閉症・情緒障害1学級(4名在籍)、言語障害1学級(5名在籍)である。その他学習や生活上の困難を有する通常の学級に在籍する児童に対して定期的な教育相談を随時実施したり、小集団学習を実施したり、あるいは心理的な安定を図る場として開放したりするなど特別支援学級を弾力的に運用している。通常の学級に在籍する児童への教育相談では、より適応的な集団生活への参加を目指し、当該児童が心理的な安定を図る場、集団生活を過ごす上での困難や授業における学習の困難に対して、補助的な個別の支援をしたりしている。A児は閉症・情緒障害特別支援学級において、小集団学習をしている。また、友達とのトラブル等で感情的になったときをしながら行動の結果を予想できるようなソーシャルスキルトレーニングをしたりしている。

【基礎②】専門性のある指導体制の確保

学校での生活や学習に不適応を示す児童生徒の実態や支援の方法を共通理解するために、中学校区において、実施されている。○小学校では、特別支援教育コーディネーターを中心に、各特別支援学級担任、生徒指導部、養護教諭が参加する支援推進委員会(コーディネーターチーム)を作り、全職員による校内支援体制の充実を図り、児童の特性や実態に応じた指導を実施している。年4回の支援会議、年2回の事例検討会を実施している。また、必要に応じてケース会議を随時行っている。さらに、通常の学級の担任が気付きチェックリストを実施し、その結果を基に特別支援学級担任と連携しながら配慮の必要な児童に対して支援をしている。その他、発達障害を有する児童に対する専門性のある指導体制を確保するため、特別支援学級担任が通常の学級の授業にサブティーチャーとして入ることによるチーム・ティーチング支援体制の充実も図っている。A児は、3年生の時、支援会議において配慮を要する児童として上がり、全職員の共通理解のもとで配慮をしてきた。また、特別支援学級担任による通常の学級でのチーム・ティーチングにより、国語科や算数科などの主要教科において個別に声をかけるなどの支援を行ってきた。5年生進級時から感情のコントロールが非常に難しくなったので、ケース会議を重ね、関係職員の共通理解を得ながら、通常の学級の担任と特別支援学級担任が連携して支援に当たったり、保護者と面談を重ねたりしながら学校と家庭の両面で心理的な安定を図っている。中学校区単位で行われる検討委員会においても、共通理解が図られ、支援方法について検討されている。

【合理①-1-2】学習内容の変更・調整

A児は書くことの困難さが大きいので、全教科共通して、ノートに書く文字の量を減らしている。学習プリント類は、穴埋め形式、または書く量を減らしたプリントを用意し、最後まで取り組めるようにしている。また、A児の状態によって、A児が学習内容について理解したことがわかる時には、あえて困難としている「書く」という作業をさせず、学習が達成できたことを認めた。家庭学習の漢字ドリルや計算ドリルは、回数や量をこなすのではなく、丁寧な字で、確実に最後まで進めることができるように、量を減らしている。

【V】基礎的環境整備の観点
【VI】合理的配慮の観点
表示部分
*条件指定した場合のみ表示

2. 検索結果画面の操作

「実践事例データベース」では、検索結果を下記の3種類の方法で表示を変更することができます。

2.1 検索結果ページの切替

検索条件に該当する実践事例データ検索結果が多く存在する場合、画面のような「次へ」が表示されます。「次へ」をクリックして、次の結果ページに切り替えることができます。あるいは「数字」をクリックして、ページを切り替えることができます。

検索結果

【Ⅰ】視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、言語障害、自閉症、情緒障害、LD(学習障害)、ADHD(注意欠陥多動性障害)

1 - 5 of 20 Items

検索画面に戻る

表示順 新着順降順

表示数 5

1 2 3 4 次へ>

1

詳細

【Ⅰ】障害種

聴覚障害

【Ⅲ】在籍状況等

小学校(通常の学級・通級による指導)

検索キーワード

通級による指導、支援員、補聴器、情報保障、コミュニケーション、教科指導、障害認識、視覚支援、ICT活用、聞こえにくさへの配慮、難聴疑似体験

概要(500文字程度)

通常の学級に在籍する聴覚障害のある児童(小学校5年生)が、特別支援学校(聴覚障害)の通級指導教室を利用しながら学習を行っている事例である。A児は、幼児期の2年間を特別支援学校(聴覚障害)幼稚園に在籍し、年長の1年間は居住地の幼稚園で過ごした。A児の社会性を養うことや保護者の意向などをC市の教育委員会が総合的に判断して、就学先はD小学校となった。D小学校では、C市から派遣された特別支援教育支援員(以下「支援員」という。)が学習や生活において、ノートテイク等の情報保障を行い、聞こえにくさに対する配慮を行っている。支援員は、教科学習の新出語句や聞き慣れない用語の意味理解の確認、友達とのコミュニケーションのサポートを行うこともある。これらの支援が、A児の学力や社会性の成長につながっている。B特別支援学校(聴覚障害)の通級指導教室には、月に1日通級し、68時間の学習のうち1時間は自立活動としての個別指導(聞こえの実態把握や聞き取りの検査、障害認識に関する学習)を受講し、ほかの68時間は特別支援学校(聴覚障害)の同学年の学級で他の児童と一緒に学習している。他校の児童と交流することは、A児の心理面に大きな影響を与えており、主体性・自主性のある行動が増えている。

2

詳細

【Ⅰ】障害種

LD(学習障害)

【Ⅲ】在籍状況等

小学校(通常の学級・通級による指導)

2.2 検索結果の表示順変更

検索条件に該当する実践事例データ検索結果は、標準で「新着順降順」に並びます。「表示順」内容を指定することで、並び順を変更することができます。

- (1) キーワードを指定しない場合は「新着順降順」「新着順昇順」「ダウンロード数降順」「ダウンロード数昇順」を選択することができます。

新着順降順：事例が新着順に、検索結果リストの上から表示されます。

新着順昇順：事例が過去の掲載順に、検索結果リストの上から表示されます。

ダウンロード数降順：ダウンロード数の多い事例が検索結果リストの上に表示されます。

ダウンロード数昇順：ダウンロード数の少ない事例が検索結果リストの上に表示されます。

検索結果

【Ⅰ】視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、言語障害、自閉症、情緒障害、LD(学習障害)、ADHD(注意欠陥多動性障害)

1 - 5 of 7 Items

検索画面に戻る

表示順新着順降順
新着順降順
新着順昇順
ダウンロード数降順
ダウンロード数昇順

表示数5

12次へ>

1

詳細

【Ⅰ】障害種	【Ⅲ】在籍状況等
聴覚障害	小学校(通常の学級・通級による指導)

検索キーワード

通級による指導、支援員、補聴器、情報保障、コミュニケーション、教科指導、障害認識、視覚支援、ICT活用、聞こえにくさへの配慮、難聴疑似体験

概要(500文字程度)

通常の学級に在籍する聴覚障害のある児童(小学校5年生)が、特別支援学校(聴覚障害)の通級指導教室を利用しながら学習を行っている事例である。A児は、幼児期の2年間を特別支援学校(聴覚障害)幼稚園に在籍し、年長の1年間は居住地の幼稚園で過ごした。A児の社会性を養うことや保護者の意向などをC市の教育委員会が総合的に判断して、就学先はD小学校となった。D小学校では、C市から派遣された特別支援教育支援員(以下「支援員」という。)が学習や生活において、ノートテイク等の情報保障を行い、聞こえにくさに対する配慮を行っている。支援員は、教科学習の新出語句や聞き慣れない用語の意味理解の確認、友達とのコミュニケーションのサポートを行うこともある。これらの支援が、A児の学力や社会性の成長につながっている。B特別支援学校(聴覚障害)の通級指導教室には、月に1日通級し、6時間の学習のうち1時間は自立活動としての個別指導(聞こえの実態把握や聞き取りの検査、障害認識に関する学習)を受け、ほかの5時間は特別支援学校(聴覚障害)の同年年の学級で他の児童と一緒に学習している。他校の児童と交流することは、A児の心理面に大きな影響を与えており、主体性・自主性のある行動が増えてきている。

2

詳細

【Ⅰ】障害種	【Ⅲ】在籍状況等
LD(学習障害)	小学校(通常の学級・通級による指導)

検索キーワード

学習障害、LD、通級による指導、読み書き、ルビ、読み上げ、心理検査、タブレット端末、支援会議

3. 具体的な検索例

3.1 検索例 1

検索内容

肢体不自由または病弱・身体虚弱で、特別支援学校に通う小学校低学年の児童に関する実践事例データから【V】基礎的環境整備の観点の「基礎⑤ 施設・設備の整備」及び【VI】合理的配慮の観点の「合理②-1 専門性のある指導体制の整備」を検索する場合

[検索操作手順]

- ①【I】対象児童生徒等の障害種に「全て選択／全て解除」のチェックを外します。
- ②【I】対象児童生徒等の障害種に「肢体不自由」と「病弱・身体虚弱」にチェックを入れます。
- ③【III】対象児童生徒等の在籍状況等に、「特別支援学校(小学部)」にチェックを入れます。
- ④【IV】対象児童生徒等の学年に、「小1」「小2」「小3」にチェックを入れます。
- ⑤【V】基礎的環境整備の観点に、「施設・設備の整備」にチェックを入れます。
- ⑥【VI】合理的配慮の観点に、「専門性のある指導体制の整備」にチェックを入れます。
- ⑦「検索」ボタンをクリックします。

キーワード検索

検索

【Ⅰ】対象児童生徒等の障害種

必須

and or

- ☐ 視覚障害 [7]
- ☐ 聴覚障害 [15]
- ☐ 知的障害 [26]
- ☒ 肢体不自由 [12]
- ☒ 病弱・身体虚弱 [6]
- ☐ 言語障害 [2]
- ☐ 自閉症 [16]
- ☐ 情緒障害 [10]
- ☐ LD(学習障害) [11]
- ☐ ADHD(注意欠陥多動性障害) [19]

☐ 全て選択／全て解除

【Ⅱ】対象児童生徒等の障害の程度
(学校教育法施行令第22条の3)

- ☐ 該当 [52]
- ☐ 非該当 [9]

【Ⅲ】対象児童生徒等の在籍状況等

- ☐ 幼稚園 [1]
- ☐ 小学校(通常の学級) [9]
- ☐ 小学校(通常の学級・通級による指導) [28]
- ☐ 小学校(特別支援学級) [30]
- ☐ 中学校(通常の学級) [2]
- ☐ 中学校(通常の学級・通級による指導) [4]
- ☐ 中学校(特別支援学級) [5]
- ☐ 高等学校 [8]
- ☐ 中等教育学校 [0]
- ☐ 特別支援学校(幼稚園) [0]
- ☒ 特別支援学校(小学部) [8]
- ☐ 特別支援学校(中学部) [2]
- ☐ 特別支援学校(高等部) [2]

【Ⅳ】対象児童生徒等の学年

- ☐ 年少 [1]
- ☐ 年中 [0]
- ☐ 年長 [0]
- ☒ 小1 [8]
- ☒ 小2 [13]
- ☒ 小3 [13]
- ☐ 小4 [20]
- ☐ 小5 [11]
- ☐ 小6 [10]
- ☐ 中1 [5]
- ☐ 中2 [4]
- ☐ 中3 [4]
- ☐ 高1 [1]
- ☐ 高2 [5]
- ☐ 高3 [4]

【Ⅴ】基礎的環境整備の観点

- ☐ 基礎㉑ ネットワークの形成・連続性のある多様な学びの場の活用
- ☐ 基礎㉒ 専門性のある指導体制の確保
- ☐ 基礎㉓ 個別的教育支援計画や個別の指導計画の作成等による指導
- ☐ 基礎㉔ 教材の確保
- ☒ 基礎㉕ 施設・設備の整備
- ☐ 基礎㉖ 専門性のある教員、支援員等の人的配置
- ☐ 基礎㉗ 個に応じた指導や学びの場の設定等による特別な指導
- ☐ 基礎㉘ 交流及び共同学習の推進
- ☐ 全て選択

【Ⅵ】合理的配慮の観点

- ☐ 合理㉑-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮
- ☐ 合理㉑-1-2 学習内容の変更・調整
- ☐ 合理㉑-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮
- ☐ 合理㉑-2-2 学習機会や体験の確保
- ☐ 合理㉑-2-3 心理面・健康面の配慮
- ☒ 合理㉒-1 専門性のある指導体制の整備
- ☐ 合理㉒-2 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮
- ☐ 合理㉒-3 災害時等の支援体制の整備
- ☐ 合理㉓-1 校内環境のバリアフリー化
- ☐ 合理㉓-2 発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮
- ☐ 合理㉓-3 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮
- ☐ 全て選択

検索

クリア

3.2 検索例2

検索内容

自閉症を併せ有する聴覚障害の児童生徒等に関する実践事例データの中で「支援機器」という言葉が含まれている実践事例データを検索する場合

[検索操作手順]

- ① 検索キーワードに「支援機器」を入力します。
- ② 【 I 】対象児童生徒等の障害種で「and」に変更します。
- ③ 【 I 】対象児童生徒等の障害種に「全て選択／全て解除」のチェックを外します。
- ④ 【 I 】対象児童生徒等の障害種に「聴覚障害」と「自閉症」にチェックを入れます。
- ⑤ 「検索」ボタンをクリックします。

検索画面

キーワード検索

① 支援機器

検索

【Ⅰ】対象児童生徒等の障害種 **必須**

②

☒ and ☐ or

☐ 視覚障害 [7]

☒ 聴覚障害 [15]

☐ 知的障害 [26]

☐ 肢体不自由 [12]

☐ 病弱・身体虚弱 [6]

☐ 言語障害 [2]

☒ 自閉症 [16]

☐ 情緒障害 [18]

☐ LD(学習障害) [11]

☐ ADHD(注意欠陥多動性障害) [19]

③ ☐ 全て選択／全て解除

【Ⅱ】対象児童生徒等の障害の程度 (学校教育法施行令第22条の3)

☐ 該当 [52]

☐ 非該当 [9]

【Ⅲ】対象児童生徒等の在籍状況等

☐ 幼稚園 [1]

☐ 小学校(通常の学級) [9]

☐ 小学校(通常の学級・通級による指導) [28]

☐ 小学校(特別支援学級) [30]

☐ 中学校(通常の学級) [2]

☐ 中学校(通常の学級・通級による指導) [4]

☐ 中学校(特別支援学級) [5]

☐ 高等学校 [8]

☐ 中等教育学校 [0]

☐ 特別支援学校(幼稚園) [0]

☒ 特別支援学校(小学部) [8]

☐ 特別支援学校(中学部) [2]

☐ 特別支援学校(高等部) [2]

【Ⅳ】対象児童生徒等の学年

☐ 年少 [1]

☐ 年中 [0]

☐ 年長 [0]

☒ 小1 [8]

☒ 小2 [13]

☒ 小3 [13]

☐ 小4 [20]

☐ 小5 [11]

☐ 小6 [10]

☐ 中1 [5]

☐ 中2 [4]

☐ 中3 [4]

☐ 高1 [1]

☐ 高2 [5]

☐ 高3 [4]

【Ⅴ】基礎的環境整備の観点

☐ 基礎① ネットワークの形成・連続性のある多様な学びの場の活用

☐ 基礎② 専門性のある指導体制の確保

☐ 基礎③ 個別的教育支援計画や個別の指導計画の作成等による指導

☐ 基礎④ 教材の確保

☒ 基礎⑤ 施設・設備の整備

☐ 基礎⑥ 専門性のある教員・支援員等の人的配置

☐ 基礎⑦ 個に応じた指導や学びの場の設定等による特別な指導

☐ 基礎⑧ 交流及び共同学習の推進

☐ 全て選択

【Ⅵ】合理的配慮の観点

☐ 合理①-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮

☐ 合理①-2 学習内容の変更・調整

☐ 合理①-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮

☐ 合理①-2-2 学習機会や体験の確保

☐ 合理①-2-3 心理面・健康面の配慮

☒ 合理②-1 専門性のある指導体制の整備

☐ 合理②-2 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮

☐ 合理②-3 災害時等の支援体制の整備

☐ 合理③-1 校内環境のバリアフリー化

☐ 合理③-2 発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮

☐ 合理③-3 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮

☐ 全て選択

⑤

検索

クリア